

協議事項（1） 第 2 次黒部市地域公共交通網形成計画骨子（案）について

1. 計画の構成

- ・第 2 次黒部市地域公共交通網形成計画（以下、「第 2 次計画」）の計画構成は、第 1 次計画（平成 30 年 12 月改訂版）を基本として、以下のように構成する。

2. 計画期間と計画区域

- ・第 2 次計画の計画期間は、現行計画やまちづくりの進展と連動した計画とするため、令和 2 年度（2020 年度）から令和 6 年度（2024 年度）の 5 年間とする。
- ・第 2 次計画の計画区域は、現行計画を踏襲し、黒部市全域とする。

計画期間：令和 2 年度（2020 年度）から令和 6 年度（2024 年度）の 5 年間

【第 1 次計画】	【第 2 次計画】
第 1 章 計画策定の背景と目的 1-1 計画策定の背景 1-2 上位計画、関連計画 1-3 形成計画策定の目的 第 2 章 黒部市と市内地域公共交通の現状 2-1 黒部市の地勢 2-2 黒部市の人口 2-3 黒部市の公共交通 2-4 北陸新幹線と富山地方鉄道新駅の開業 2-5 公共交通空白地域の存在 2-6 まちづくりの現状 2-7 市民の主な交通手段と目的地 第 3 章 市民アンケート調査結果 3-1 住民へのアンケート調査結果概要 3-2 アンケート調査結果	第 1 章 計画策定の背景と目的 1-1 背景 1-2 上位計画・関連計画 1-3 計画策定の目的 第 2 章 黒部市と市内地域公共交通の現状 2-1 黒部市の地勢 2-2 黒部市の人口 2-3 黒部市の公共交通 2-4 まちづくりの現状と今後の動き 2-5 市民の主な交通手段と目的地 第 3 章 アンケート調査結果（概要） 3-1 市民アンケート調査 3-2 黒部宇奈月温泉駅利用者アンケート調査

3. 計画の論点・視点【再掲】

（１）公共交通を取り巻く状況（第1次計画期間）

① 数値目標の達成状況（見通し）

- 目標指標1：黒部市市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数
⇒ 目標達成の見通し
 - ・現状値：36,613人/年（H25/10～H26/9）
 - ・評価値：189,787人/年（H30年度）
 - 参考 186,970人/年（H29.10～H30.9）
 - ・目標値：180,000人/年（H30/10～H31/9）
- 目標指標2：市内鉄道の利用者数 ⇒ 目標達成の見通し
 - ・現状値：2,631,285人/年（H25/4～H26/3）
 - ・評価値：3,471,150人/年（H30年度）
 - ・目標値：3,393,000人/年（H30/4～H31/3）
- 目標指標3：公共交通利用圏内 町内会人口率
（交通空白地域の解消）⇒ 目標達成
 - ・現状値：76%（H27/3時点）
 - ・評価値：99.9%（H31/3時点）
 - ・目標値：100%（H31/3時点）
- 目標指標4：1年に1回以上公共交通を利用する市民の割合
⇒ 状況把握が必要
 - ・現状値：61.0%（H26年度アンケート）
 - ・評価値：—（R1年度アンケート）
 - ・目標値：80.0%（R1年度アンケート）
- 目標指標5：市内公共交通への満足度 ⇒ 状況把握が必要
 - ・現状値：2.37（H26年度アンケート）
 - ・評価値：—（R1年度アンケート）
 - ・目標値：3.50（R1年度アンケート）

② 顕在化した問題（バス・コミュニティ交通）

- 慢性的な運転手の不足
- 運行事業の官民負担額の拡大

③ まちづくり等の動き

【これまでの動き】

- 黒部市立地適正化計画の策定（平成29年度）
- 民間によるまちづくりの取組の進展
（バッシブタウン、Kタウン等）
- 高齢者運転免許自主返納支援事業の普及

【今後の動き】

- 道の駅（仮称）くろべの完成（令和3年度末）
- （仮称）くろべ市民交流センターの完成（令和4年度末）
- 黒部ルート的一般開放（令和6年～）

（２）第2次計画策定に向けた課題

① 公共交通利用者数のさらなる増加

- ダイヤや路線系統の改善による利用者数の底上げ
 - ・公共交通網の持続を図るには、ダイヤやルート等の改善により、さらなる利用者数の底上げが必要
- ソフト事業の改善による利用者数の底上げ
 - ・公共交通網の持続を図るには、情報提供方法や利用促進施策の実施手法の改善により、さらなる利用者数の底上げが必要（自治振興会等への働きかけの強化等）
- 高齢者に対する公共交通の利用促進
 - ・豊かな長寿社会の実現に向け高齢者の外出機会の拡大を図るには、高齢者に対するさらなる公共交通の利用促進が必要

② 公共交通網の持続に向けた仕組みの検討

- 継続的な運転手の確保
 - ・公共交通網の持続を図るには、運転手を継続的に確保するための取組が必要
- 運行事業の効率化
 - ・運賃収入から運行経費を差し引いたいわゆる「赤字額」は、「地域を支えるための支出」として必要なものであり、官民で負担しているが、公共交通網の持続を図るには、必要な負担は支出しつつも、収支バランスを常に考慮することが必要
 - ・併せて、運行体系や類似区間の運賃見直しにより、運行事業の効率化が必要
 - ・官民での役割分担のあり方を再検討することが必要
- 中長期的な施策動向を踏まえた検討
 - ・中長期的なまちづくり施策や交通施策の動向を踏まえた検討を行うことが必要

③ 新たな観光地へのアクセス環境の確保

- ・新幹線効果の持続を図るには、新たな観光地へのアクセス環境の確保が必要
- 道の駅（仮称）くろべの整備（令和3年度）
- 黒部ルート的一般開放（令和6年度～）

（３）第2次計画策定の論点・視点（基本方針に向けた考え方）

① 公共交通網の持続に向けた利用促進

- 鉄道を軸とした公共交通網の持続
～ 本市公共交通の根幹となる考え方 ～
- 各路線の見直し
 - ・利用者ニーズに応じたダイヤ・路線系統の見直し方法の検討
 - ・まちづくりと連動した交通環境の整備
（市民交流センター整備に伴うバス路線の見直し）
（K-TOWN等へのバス停設置）
- 利用促進に向けたソフト事業の改善方法の検討
 - ・情報提供手法の改善策の検討
（ホームページ、バスマップ、ロケーションシステム、電子看板）
 - ・企画切符の実施手法の検討
 - ・利用促進施策の実施手法の検討
 - ・学生向けの利用促進策の検討
- 免許証返納制度との連携
 - ・高齢者運転免許自主返納支援事業の普及促進方法の検討
 - ・市民環境課との連携手法の検討
 - ・自宅から駅、バス停までの移動環境の検討

② 公共交通の担い手の確保と効率的な運行体系への見直し

- 公共交通の担い手確保に向けた方策の検討
 - ・運転手の求人方法の検討
 - ・運行事業者選定方法の検討
 - ・運転手の待遇改善方法の検討
 - ・地域バス・タクシー導入可能性の検討
- 効率的な運行体系への見直し
 - ・バス路線の定期的な見直しの検討
 - ・路線バスのデマンド運行への移行方法の検討
 - ・スクールバスとの併用方法の検討（池尻線）
 - ・日中帯の路線見直し方法の検討（南北循環線）

③ 新幹線効果の持続を図る観光地等へのアクセス環境の向上

- 黒部ルート開放に伴う宇奈月温泉へのアクセス環境の検討
 - ・地鉄の利用促進方法の検討
 - ・宇奈月温泉駅周辺の歩行環境整備方法の検討
- 「道の駅（仮称）くろべ」整備に伴うバス路線の見直し
 - ・生地循環線や石田三日月線等でのバス停設置

4. 第1次計画の検証

(1) 目標の達成状況

- ・目標指標1及び2、3については、目標を達成。
- ・目標指標4については、指標は改善せず、目標を未達成。
- ・目標指標5については、指標が改善するものの、目標を未達成。

	現状値 (集計期間)	評価値 (集計期間)	目標値 (集計期間)	数値目標の 達成状況
目標指標1 市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数	36,613人/年 (H25/10～H26/9)	189,886人/年 (H30/10～H31/9)	180,000人/年 (H30/10～H31/9)	○ (確定値)
目標指標2 市内鉄道の利用者数	2,631,285人/年 (H25/4～H26/3)	3,471,161人/年 (H30/4～H31/3)	3,393,000人/年 (H30/4～H31/3)	○ (確定値)
目標指標3 公共交通利用圏域内 町内会人口率 (交通空白地域の解消)	76% (H27/3 時点)	99.9% (H31/3 時点)	100% (H31/3 時点)	○ (確定値)
目標指標4 1年に1回以上公共交通を利用する市民の割合	61.0% (H26年度アンケート)	58.1% (R1年度アンケート)	80.0% (R1年度アンケート)	✕ (確定値)
目標指標5 市内公共交通への満足度	2.37 (H26年度アンケート)	2.59 (R1年度アンケート)	3.50 (R1年度アンケート)	△ (確定値)

数値目標の 達成見通し	評価の基準
○	・評価値が目標値を上回った場合
△	・評価値が目標値には達していないものの、近年の傾向よりは改善していることが認められる場合
✕	・評価値が目標値には達しておらず、かつ近年の傾向よりも改善がみられない場合
—	・現時点での評価が難しい場合

(2) 第1次計画に位置づけた事業の進捗状況【再掲】

- ・第1次計画に位置付けた30の事業については、概ね計画期間中に着実に実施している。

体系① 新幹線開業効果を高める公共交通網の形成

- ・体系①に位置付けた事業は、計画どおり事業中である。

実施状況凡例 [●:達成 ○:継続して実施 △:検討]			
番号	事業名	平成30年度進捗	
		実施状況	実施内容
1	新幹線市街地線の運行	○	・継続的に運行中。 ・利用者数増につながった延伸効果をさらに上げるため、黒部宇奈月温泉駅西口バス停を新設。 ・利用者が増加している。
2	新幹線生地線の運行	○	・継続的に運行中 ・順調に利用者数が増加
3	新川地域観光周遊タクシー「にいたく」の運行	○	・引き続き利用状況を把握しつつ必要があればサポートの検討を行う。
4	アルペンライナー(宇奈月温泉立山室堂線)の運行	○	・継続的に運行中。 ・路線維持のために積極的な周知が必要である。 ・H30.4/29～10/14 土日祝日67日運行 利用人数 994人、1日平均 15人、1便平均 7.4人

体系② まちづくりと連動した地域公共交通網の形成

- ・体系②に位置付けた事業は、計画どおり事業中である。

実施状況凡例 [●:達成 ○:継続して実施 △:検討]			
番号	事業名	平成30年度進捗	
		実施状況	実施内容
5	生地循環線の運行と定期的な改善	○	・継続して運行中。 ・循環路線を廃止した結果利用状況に改善がみられている。 ・一部路線延伸を行ったが、利用者数は伸び悩んでいる。地元意見を取り入れ来年度ダイヤ編成変更の予定
6	石田三日市線の計画と運行	○	・継続して運行中。 ・昨年度のルート改善以降、利用者数増加の効果が続いている。
7	【新規】南北循環線の計画と運行	○	・継続して運行中。 ・当初目標には達していないものの、利用者数は増加傾向。 ・利用者の少ない退勤帯の便を廃止し、赤字額を抑制
8	愛本コミュニティタクシーの運行改善	○	・継続して運行中。 ・1便あたり利用者数は前年比で増加したが、近年の平均と同様の水準である。
9	田家・前沢地区でのデマンドタクシーの運行	○	・継続して運行中。 ・前年同様の利用状況となっているが、継続的に利用促進が必要。
10	村椿・大布施・荻生地区でのデマンドタクシーの計画と運行	○	・継続して運行中。 ・前年度と横ばいの状況となっており、継続的に利用促進が必要。

体系③ 公共交通利用環境の整備

- ・体系③に位置付けた事業は、概ね計画通り事業中である。

実施状況凡例 [●:達成 ○:継続して実施 △:検討]			
番号	事業名	平成30年度進捗	
		実施状況	実施内容
11	宇奈月温泉駅周辺地区の歩行環境整備	○	・駅周辺地区におけるバリアフリー化については継続して検討を行う。
12	バス待合環境の改善（モビリティハブの整備）	○	・モビリティハブの設置箇所の増加を図った。
13	【新規】無料公共自転車「ちょいのり黒部」の整備・運用	○	・継続的に運用していたが、利用者のモラルの悪化に伴い、利用休止。 ・対策について検討し、来年度より再開予定。
14	駅施設の修繕・改善	○	・荻生駅の整備に向け、実施設計を行った。
15	環境配慮型車両、バリアフリー車両の導入	△	・適用路線、車両について検討中。
16	車両及びバス停のデザイン化促進	○	・モビリティハブデザインやおためし乗車券における市内公共交通デザインの統一。（ブランディングの実施）
17	パーク＆ライド駐車場の整備	△	・適用駅について検討中。

体系④ 公共交通利用時の利便性向上

- ・体系④に位置付けた事業は、計画どおり事業中である。

実施状況凡例 [●:達成 ○:継続して実施 △:検討]			
番号	事業名	平成30年度進捗	
		実施状況	実施内容
18	交通情報提供システムの導入・運用	○	・平成29年度に引き続き、バスロケーションシステムとデジタルサイネージの運用を行った。
19	乗継ぎ利便性の確保	○	・定期的に公共交通の利用状況を調査し、ルートの見直しやバス停の廃止、新規設置を行った。 ・北陸新幹線やあいの風とやま鉄道のダイヤ改正にあわせて関係路線のダイヤ改正を実施した。

体系⑤ 公共交通の利用促進

- ・体系⑤に位置付けた事業は、計画どおり事業中である。

実施状況凡例 [●:達成 ○:継続して実施 △:検討]			
番号	事業名	平成30年度進捗	
		実施状況	実施内容
20	公共交通情報提供ホームページの運営	○	・継続して「公共交通で行こう」HPを運営した。
21	企画切符の発行	○	・継続してくるワンきっぷを発行した。 ・企画切符とやま一日乗り放題切符に参加した。
22	公共交通マップの作成	○	・継続して実施。内容の更新を行う。
23	モビリティマネジメントの実施	○	・8回の体験乗車会の実施。 ・イベントと連携したおためし乗車券の配布ニュースレター、KidsDoの発行。

体系⑥ コンパクトなまちづくりの推進

- ・体系⑥に位置付けた事業は、計画どおり事業中である。

実施状況凡例 [●:達成 ○:継続して実施 △:検討]			
番号	事業名	平成30年度進捗	
		実施状況	実施内容
24	住宅取得支援補助事業の推進	○	・継続して実施。
25	都市機能集積の推進	○	・（仮称）くろべ市民交流センターの整備検討が進行中である。

体系⑦ 公共交通に関する調査・計画・評価検証

- ・体系⑦に位置付けた事業は、概ね計画どおり事業中である。

実施状況凡例 [●:達成 ○:継続して実施 △:検討]			
番号	事業名	平成30年度進捗	
		実施状況	実施内容
26	新幹線の利用状況調査	○	・継続して定期的に乗降調査を行った。
27	【新規】池尻線とスクールバスの一体的な運行計画の検討	△	・今年度スクールバスの一体的な運行について検討を行った。
28	ICTを活用した予約制相乗り型交通システムの実証実験、導入可能性調査、計画検討	○	・第2回目の実証実験を実施した。 ・実施結果を検証している。
29	公共交通の評価、検証	○	・継続して計画のフォローアップを行った。
30	市民意見の聴取、アンケート調査の実施	○	・池尻線の検討を通じたアンケート、相乗りタクシー参加者対象のアンケートで意見聴取を行った。

（３）第1次計画のまとめ

① 第1次計画での主な成果

○ 鉄道を軸とした公共交通網を構築

- ・北陸新幹線の開業やまちづくりの動向と連動しながら、バス路線やコミュニティ交通の新設・再編を実施し、鉄道を軸とした公共交通網を構築・開業効果を持続させる多様な方策の検討が必要
 - ・市内の各地域や新幹線駅、観光地と市街地とのアクセス性を確保
 - ・公共交通空白地域を解消

○ 公共交通の利便性を確保

- ・市民ニーズや運行効率の効率化等の視点から、既存バス路線の再編や定期的な見直し、利用環境の改善等を実施し、公共交通の一定水準の利便性を確保
 - ・市民の公共交通に対する満足度が向上
 - ・新幹線利用者の満足度も向上
 - ・路線バス利用者で高い満足度

○ 公共交通利用者数が増加

- ・バス路線やコミュニティ交通の新設・再編や利用環境の改善、利用促進の取組等を実施し、公共交通利用者数が増加
 - ・鉄道利用者数が増加
 - ・路線バス・コミュニティ交通利用者数が増加

② まちづくり等の動き

○ これまでの動き

- ・黒部市立地適正化計画の策定（平成29年度）
- ・民間によるまちづくりの取組の進展（パッシブタウン、Kタウン等）
- ・高齢者運転免許自主返納支援事業の普及

○ 今後の動き

- ・道の駅（仮称）くろべの完成（令和3年度末）
- ・（仮称）くろべ市民交流センターの完成（令和4年度末）
- ・黒部ルート的一般開放（令和6年～）

③ 第2次計画に向けた主な課題

○ 公共交通網の維持・さらなる利便性向上

- ・新設・再編により構築した公共交通網を維持するとともに、利用者ニーズに応じた、公共交通網のより一層の利便性の向上を図る必要

○ 新幹線効果の持続と新たなまちづくりへの対応

- ・新幹線駅と市街地、観光地を結ぶ公共交通を維持するとともに、新たな観光地へのアクセス環境を確保する必要
- ・より一層の都市機能の集約化を推進するとともに、新たな市街地開発の動向に、公共交通網を対応させることが必要

○ 将来的な公共交通網の持続に向けた対応

- ・利用者ニーズや収支バランスを考慮しながら、運行体系や運賃の見直しを含めた運行事業のより一層の効率化を進めるとともに、これに対する市民との円滑な合意形成を図る必要
- ・併せて、運行事業を担う人材を継続的に確保するための取組を実施する必要

○ 公共交通のさらなる利用促進

- ・依然として市民の公共交通利用頻度が低い水準にある中で、高齢者をはじめとする市民に対する情報提供や啓発活動を充実させる必要
- ・併せて、より一層の利便性の向上に向け、新たな技術の導入を含め、公共交通の運行方法（車両やダイヤ、ルート等）や利用環境を改善する必要

5. 目指すべき都市構造と計画の基本方針

（１）目指すべき都市構造

- 第1次計画で設定した目指すべき都市構造は本市の骨格となる都市構造であるため、第2次計画においても第1次計画で設定した目指すべき都市構造を踏襲。

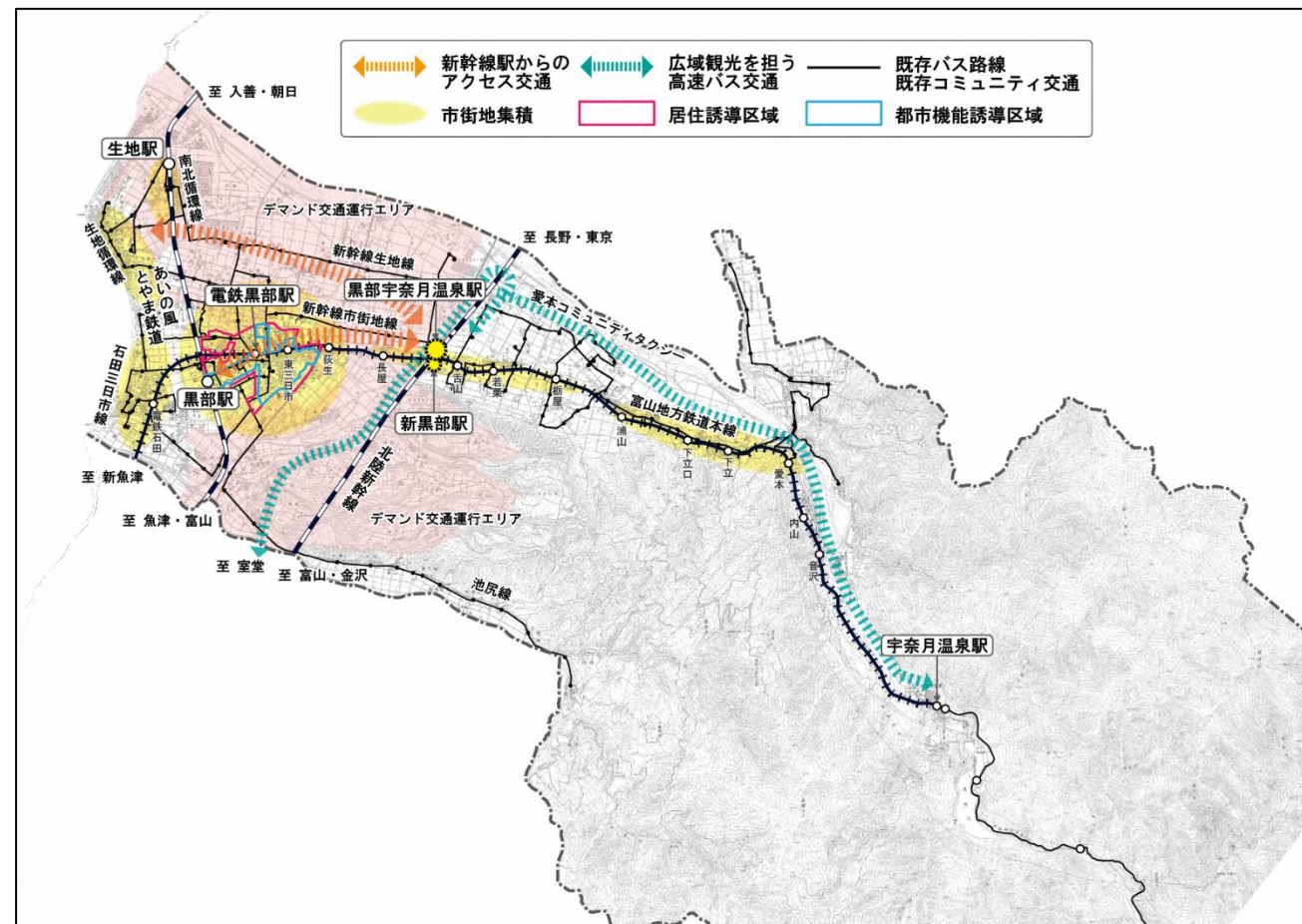
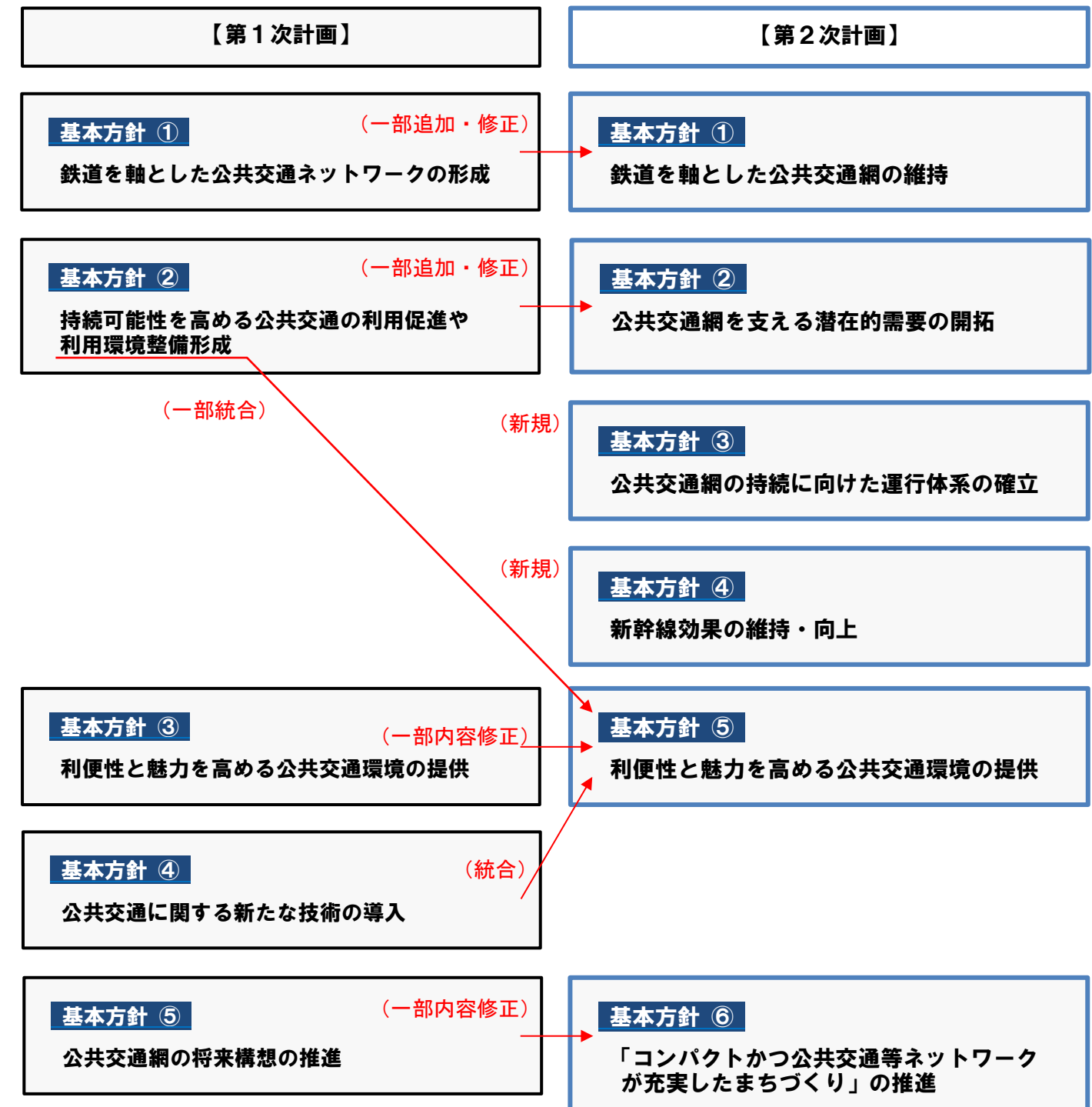


図 鉄道を軸とした都市構造のイメージ

（２）計画の基本方針

- 第一次計画の成果や課題を踏まえ、目指すべき都市構造の実現に向け、第2次計画の基本方針を以下のように設定。



6. 計画の目標

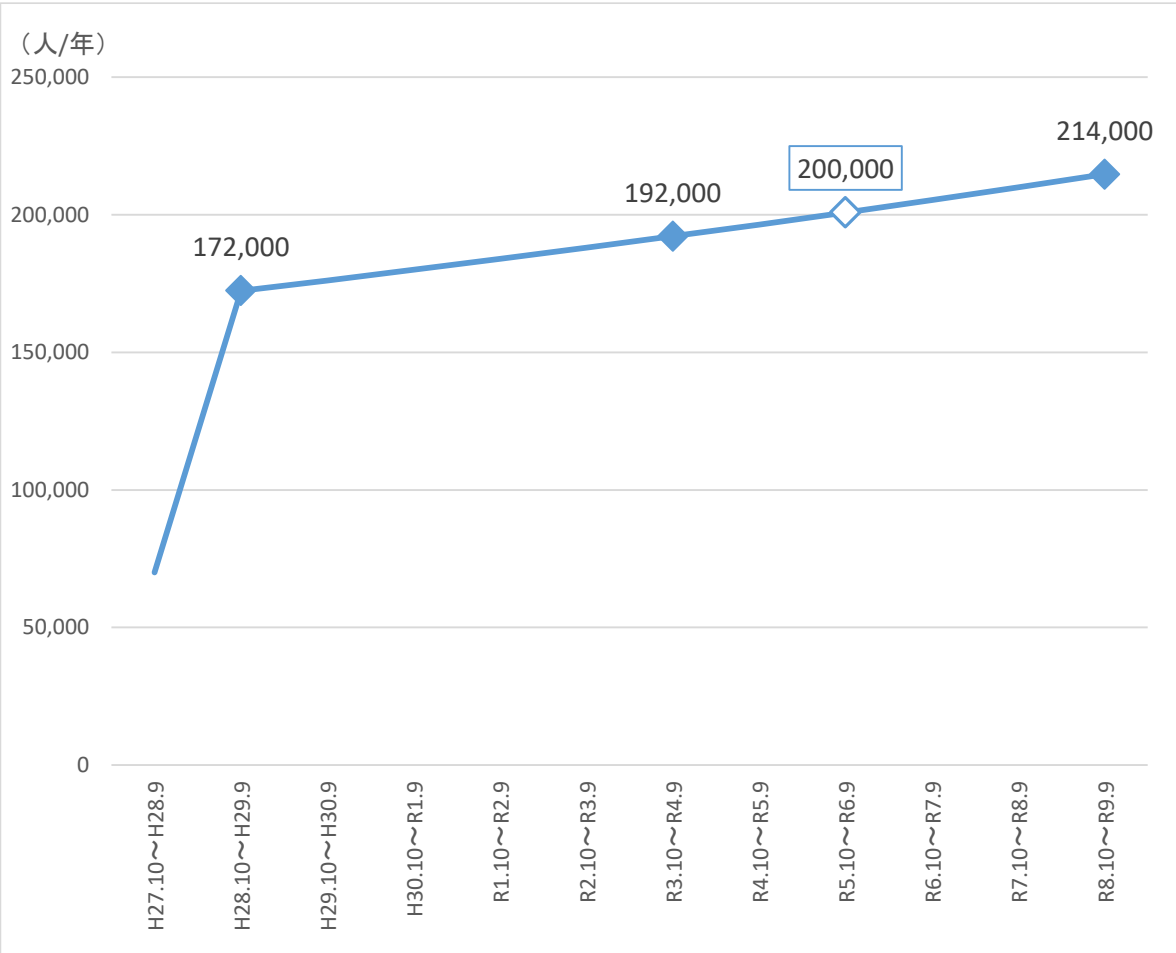
・計画の基本方針を実現するため、計画の目標（指標）を、以下のように設定する。

	現状値 （集計期間）	目標値 （集計期間）	備考）
目標指標 1 市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数	189,886人/年 (H30/10～R1/9)	200,000人/年 (R5/10～R6/9)	・上位・関連計画と整合（参考）第 2 次総合振興計画の目標値 214,000 人（R9）
目標指標 2 市内鉄道の利用者数	3,471,161人/年 (H30/4～H31/3)	3,674,000人/年 (R5/4～R6/3)	・目標指標 1 の現状値と目標値との変化率を踏まえ設定
目標指標 3 公共交通利用圏域内 町内会人口率（交通空白地域の解消）	99.9% (H31/3 時点)	99.9% (R6/3 時点)	・現状値を維持
目標指標 4 1 年に 1 回以上公共交通を利用する市民の割合	58.1% (R1 年度アンケート)	80.0% (R6 年度アンケート)	・第 1 次計画の目標値を踏襲（目標未達成）
目標指標 5 市内公共交通への満足度	2.59 (R1 年度アンケート)	3.50 (R6 年度アンケート)	・第 1 次計画の目標値を踏襲（目標未達成）

参考）第 1 次計画の目標（指標）

	現状値 （集計期間）	評価値 （集計期間）	目標値 （集計期間）
目標指標 1 市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数	36,613人/年 (H25/10～H26/9)	189,886人/年 (H30/10～H31/9)	180,000人/年 (H30/10～H31/9)
目標指標 2 市内鉄道の利用者数	2,631,285人/年 (H25/4～H26/3)	3,471,161人/年 (H30/4～H31/3)	3,393,000人/年 (H30/4～H31/3)
目標指標 3 公共交通利用圏域内 町内会人口率（交通空白地域の解消）	76% (H27/3 時点)	99.9% (H31/3 時点)	100% (H31/3 時点)
目標指標 4 1 年に 1 回以上公共交通を利用する市民の割合	61.0% (H26 年度アンケート)	58.1% (R1 年度アンケート)	80.0% (R1 年度アンケート)
目標指標 5 市内公共交通への満足度	2.37 (H26 年度アンケート)	2.59 (R1 年度アンケート)	3.50 (R1 年度アンケート)

参考）目標指標 1（市内路線バス・コミュニティ交通の利用者数）の設定値について
（第 2 次総合振興計画）



【参考】黒部市年齢別人口推計（第 2 次黒部市総合振興計画より転載）
(単位：人)

		実績値					推計値		目標値
		1995 年 (平成 7 年)	2000 年 (平成 12 年)	2005 年 (平成 17 年)	2010 年 (平成 22 年)	2015 年 (平成 27 年)	2022 年 (平成 34 年)	2027 年 (平成 39 年)	2027 年 (平成 39 年)
総人口		43,439	43,084	42,694	41,852	40,991	38,727	37,083	39,000
年少人口 (0～14 歳)		6,738 (15.5%)	6,063 (14.1%)	5,757 (13.5%)	5,580 (13.3%)	5,213 (12.7%)	4,462 (11.5%)	3,987 (10.8%)	4,936 (12.7%)
生産年齢人口 (15～64 歳)		28,562 (65.8%)	27,716 (64.3%)	26,673 (62.5%)	25,141 (60.1%)	23,282 (56.8%)	21,445 (55.4%)	20,403 (55.0%)	21,371 (54.8%)
老年人口	65～74 歳	4,650 (10.7%)	5,184 (12.0%)	5,117 (12.0%)	5,319 (12.7%)	6,202 (15.1%)	5,471 (14.1%)	4,709 (12.7%)	4,709 (12.1%)
	75 歳以上	3,489 (8.0%)	4,121 (9.6%)	5,147 (12.1%)	5,812 (13.9%)	6,294 (15.4%)	7,348 (19.0%)	7,984 (21.5%)	7,984 (20.5%)
	計	8,139 (18.7%)	9,305 (21.6%)	10,264 (24.0%)	11,131 (26.6%)	12,496 (30.5%)	12,820 (33.1%)	12,693 (34.2%)	12,693 (32.5%)

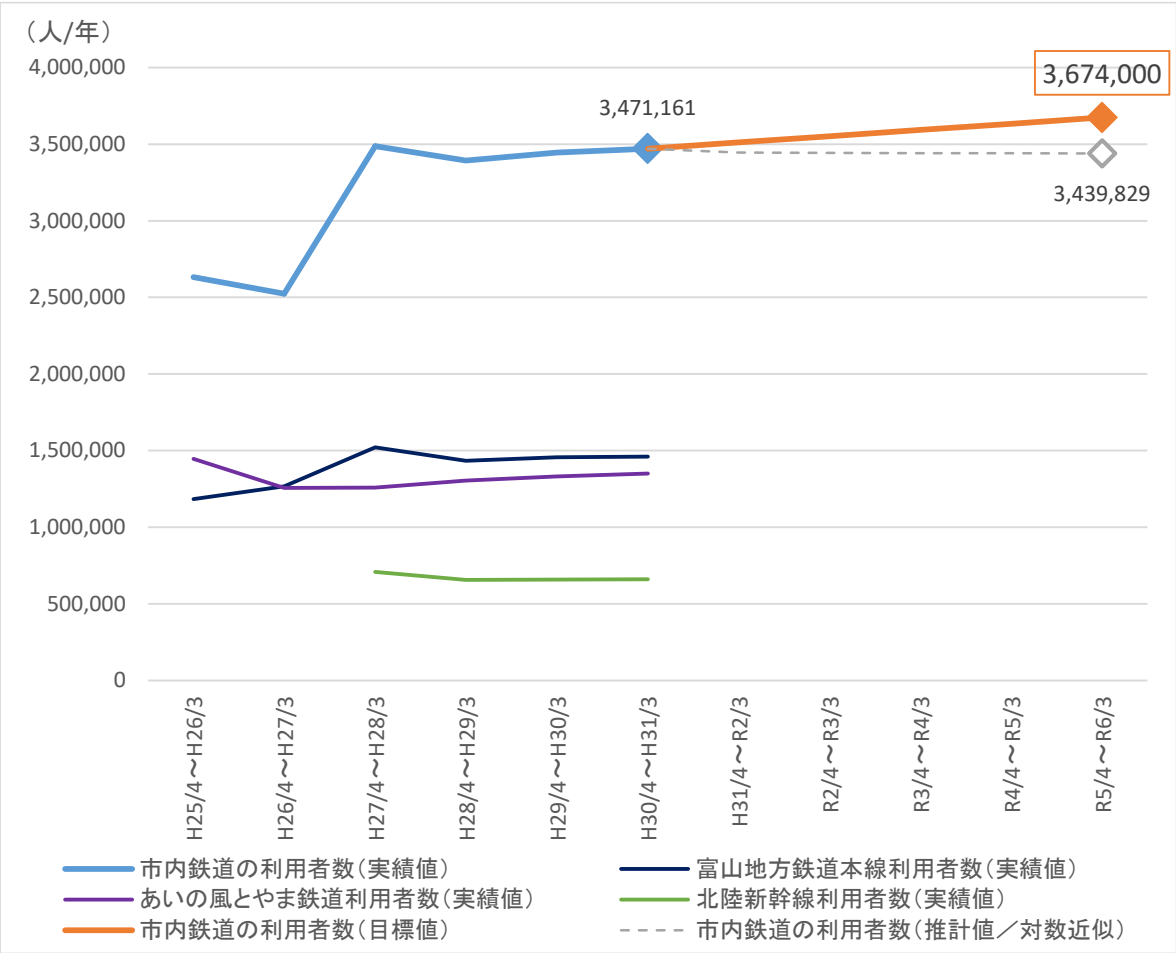
年齢不詳人口がいた場合は、総人口と整合を図るため、各年齢層の人口割合で按分を行っています。
年齢層の構成割合は、四捨五入の関係で、合計との整合がとれない年があります。

【参考】老年人口の男女比
2015 年 男性 42% 5,251 人 女性 58% 7,245 人

※人数については、表の合計と整合を取るため、端数調整しています。

出典：実績値 国勢調査
推計値 社人研
目標値 黒部市人口ビジョン

参考）目標指標 2（市内鉄道の利用者数の設定値）について



※ 目標指標 1 の現状値と目標値との変化率と同等の変化率を目標指標 2 にも適用

7. 実施する事業

・計画の基本方針や目標を実現するために実施する事業を、以下のように設定する。

：新規施策 【番号欄】 ：計画早期に着手すべき事業 無印：計画期間を通じて実施又は検討する事業
：計画後期に着手する事業

【 第1次計画 】

事業の体系	番号	事業名	対応
①新幹線開業効果を高める公共交通網の形成	1	新幹線市街地線の運行	(第2次「4」で、名称変更し継続)
	2	新幹線生地線の運行	(第2次「5」で、名称変更し継続)
	3	新川地域観光周遊タクシー「にいたく」の運行	(廃止)
	4	アルペンライナー（宇奈月温泉立山室堂線）の運行	(第2次「12」で、名称変更し継続)
②まちづくりと連動した地域公共交通網の形成	5	生地循環線の運行と定期的な改善	(第2次「6」で、名称変更し継続)
	6	石田三日市線の計画と運行	(第2次「7」で、名称変更し継続)
	7	南北循環線の計画と運行	(第2次「9」で、名称変更し継続)
	8	愛本コミュニティタクシーの運行改善	(第2次「10」で、名称変更し継続)
	9	田家・前沢地区でのデマンドタクシーの運行	(第2次「11」に集約)
	10	村椿・大布施・荻生地区でのデマンドタクシーの計画と運行	(第2次「11」に集約)
③公共交通利用環境の整備	11	宇奈月温泉駅及び周辺地区の歩行環境整備	(第2次「22」に振替)
	12	バス待合環境の改善（モビリティハブの整備）	(第2次「23」で継続)
	13	無料公共自転車「ちよいのり黒部」の整備・運用	(第2次「24」で継続)
	14	駅施設の修繕・改善	(第2次「25」に集約)
	15	環境配慮型車両、バリアフリー車両の導入	(第2次「28」で継続)
	16	車両及びバス停のデザイン化促進	(第2次「27」で継続)
	17	パーク＆ライド駐車場の整備	(第2次「25」に集約)

【 第2次計画 】

基本方針	基本施策	番号	実施事業(案)	備考）※キーワード
①鉄道を軸とした公共交通網の維持	①都市の骨格となる鉄道の持続的な運行	1	北陸新幹線のさらなる利便性向上	・臨時便の停車等の働きかけ ・利用促進
		2	あいの風とやま鉄道のさらなる利便性向上	・増便等の働きかけ ・利用促進
		3	富山地方鉄道本線のさらなる利便性向上	同上
	②路線バスの持続的な運行	4	新幹線市街地線の維持及び利便性向上	・運行 ・ニーズに応じた改善
		5	新幹線生地線の維持及び利便性向上	同上
		6	生地循環線の維持及び利便性向上	同上
		7	石田三日市線の維持及び利便性向上	同上
		8	池尻線の維持及び利便性向上	同上
		9	南北循環線の維持及び利便性向上	同上
	③コミュニティ交通の持続的な運行	10	愛本コミュニティタクシーの維持及び利便性向上	同上
		11	デマンドタクシーの維持及び利便性向上	同上
②公共交通網を支える潜在的需要の開拓	④観光地を結ぶ交通網の維持	12	アルペンライナー（宇奈月温泉立山室堂線）の維持及び利便性向上	・増便等の働きかけ ・利用促進
	⑤公共交通の利用促進	13	情報提供や利用促進に向けた取り組みの充実	・HP、MAP、広報 ・乗車体験会・ ・ロケーションシステム
		14	利用促進に向けた運賃設定と企画切符等の発行	・学生向け割引切符
		15	運転免許自主返納と連携した利用促進	・今後の社会の流れ
		16	黒部宇奈月温泉駅駐車場の運用方法の検討	
	⑥まちづくりと連動した交通環境の整備	17	交流施設の整備に合わせたバス路線の見直し	・乗り入れ路線の検討 ・道の駅(仮称)くろべ ・(仮称)市民交流センター等

【 第 1 次計画 】

事業の体系	番号	事業名	対応
④公共交通利用時の 利便性向上	18	交通情報提供システムの導入・運用	(第2次「26」で、 名称変更し継続)
	19	乗継ぎ利便性の確保	(第2次「18」に集約)
⑤公共交通の利用促進	20	公共交通情報提供ホームページの 運営	(第2次「13」に集約)
	21	企画切符の発行	(第2次「14」で、 名称変更し継続)
	22	公共交通マップの作成	(第2次「13」に集約)
	23	モビリティマネジメントの実施	(第2次「13」に集約)
⑥コンパクトなまちづくり の推進	24	住宅取得支援補助事業の推進	(第2次「29」で 名称変更し継続)
	25	都市機能集積の推進	(第2次「30」で継続)
⑦公共交通に関する調査 ・計画・評価検証	26	新幹線の利用状況調査	(第2次「31」に集約)
	27	池尻線とスクールバスの一体的な運 行計画の検討	(第2次「8」「19」 で、名称変更し継続)
	28	IOT を活用した予約制相乗り型交通 システムの実証実験、導入可能性調 査、計画検討	(第2次「28」に集約)
	29	公共交通の評価、検証	(第2次「32」で継続)
	30	市民意見の聴取、アンケート調査の 実施	(第2次「31」に集約)

【 第 2 次計画 】

基本方針	基本施策	番号	実施事業(案)	備考) ※キーワード
③公共交通網の持続に 向けた運行体系の確 立	⑦運行事業の効率化	18	バス路線等の定期的な見直しの検討	・見直し基準の設定 ・収支単価の概念 ・ダイヤ、ルート等 ・乗り継ぎ利便性 ・路線バスのデマンド運 行への移行方法
		19	路線バスとスクールバス等との一体 的な運行に向けた検討	・スクールバスやその他 送迎バスと公共交通の 連携
	⑧公共交通の担い手の 確保	20	運転手確保の取組みへの支援	・運行ダイヤに見合った 運転手確保
		21	地域バス・タクシー導入可能性の検 討	
④新幹線効果の維持・ 向上	⑨新たな観光地への アクセス環境の向上	22	黒部ルート一般開放に伴う既存公共 交通の利用促進	・地鉄の利用促進方法の検 討・宇奈月温泉駅及び周 辺地区の歩行環境整備
⑤利便性と魅力を高め る公共交通環境の提 供	⑩公共交通利用環境の 充実	23	バス待合環境の改善	・バス停上屋、ベンチ等
		24	無料公共自転車「ちょいのり黒部」 の整備・運用	
		25	駅施設の修繕・改善とパーク＆ライ ド駐車場の整備	・あいの風黒部駅東西連 絡通路
		26	交通情報提供システムを利用した利 便性の向上	・ロケーションシステ ム、サイネージ
		27	車両及びバス停のデザイン化促進	
	⑪新たな技術の導入に よる利便性・魅力の 向上	28	環境配慮型車両、バリアフリー車両 や新システム等の導入可能性の検討	
⑥「コンパクトかつ公 共交通等ネットワー クが充実したまちづ くり」の推進	⑫コンパクトなまちづ くりの推進	29	居住誘導区域への居住推進	・公共交通が利用しやす いまちづくり ・住宅取得支援補助事業
		30	都市機能集積の推進	・公共交通が利用しやす いまちづくり
	⑬公共交通に関する調査 ・計画・評価検証	31	市民アンケートや新幹線の利用状況 調査の実施	・公共交通に対する市民 意識の定点観測
		32	公共交通の評価、検証	